

評価室活動報告

障がい児通所支援事業「生活クラブあのねのお家」施設見学記 ～2018年11月1日オープン～

10月26日、稲城市に新設された障がい児通所支援施設の内覧会にひと・まち社から中野区の放課後等デイサービスの評価を担当する評価者と参加しました。新しい事業所は北側に桜並木があり日当たりもよく、閑静な住宅地の中に建っていました。内覧会には施設のオーナーをはじめ、事業所で働く専門職の方々、地域の生活クラブまち委員も子ども連れで参加していました。



五感やバランス感覚を育む仕掛けなどが備え付けられている

生活クラブ生協東京の土谷雅美理事長は、助け合いが基本の生活協同組合だからこそ福祉事業がやれること、保育事業を進める中で見えてきた課題があり構想から2年で設立できたと語り、施設管理者の中村美穂子さんは、子どもの発達支援拠点が欲しい、子どもの権利を実現できる施設にと粘り強く活動を進めてきたこと、これから情報の発信拠点にしたいと熱く語りました。

高齢者のデイサービスだった建物を改修した施設は、元の構造を生かし、事務所スペースや活動室などがうまく

配置されています。床にはコルクが敷かれ、感性を育む玩具も準備されていました。木製の机や椅子は触ると表面が柔らかく感じられ、子ども達のお気に入りだそうです。一人になりたいときの空間も畳のスペースが確保されていました。室内は手作り感があり、とても明るく温かみを感じられ、子どもが過ごす場所として親達も安心できる空間になっていました。

1階は未就学児対象の児童発達支援スペース、2階では放課後等デイサービスを行います。放課後等デイサービスは学齢期から18歳までが対象ですが、ここではまず、学齢期の子ども達を受け入れ、成長を見守りながら信頼関係を築いていくことを優先します。

事業所には開設前にもかかわらず、すでに問い合わせがあるなどニーズがあることがうかがえ、「あのねのお家」が必要な拠点として地域に根付くことを確信しました。

今回の見学を踏まえて第三者評価にも生かしていきたいと思います。 工藤春代

～地域資源の発掘や人とのつながりづくりのために～盆踊り太鼓ワークショップ開催報告

3年間の継続調査「新総合事業に関する市民の意向調査・自治体調査」では、市民による様々な取り組みが生まれていることが確認でき、さらに福祉資源を豊かにするために市民の活動を広げていく必要性が見えてきました。そこで今回は、地域づくりや震災復興時のコミュニティづくりのきっかけに祭りが行われていることに注目し、多くの人々がかかわりやすい面を持っていること、互助などの福祉的要素に加え多様な面からの地域資源の発掘が期待できること、気軽に参加できる仕掛けとして有効ではないかと考え、盆踊り太鼓のワークショップを企画しました。

参加対象は、人とのつながりをコーディネートする可能性のある施設職員、地域活動を実践している人、太鼓を叩きたい人とし、実践の場での活用や身近な祭りへの参加を後押しすることを目的としました。

ワークショップは9月から10月に2回、11月の成果発表と計3回企画しました。参加者は保育士、看護師、乳児・幼児・小学生連れの親子、地域活動をする70代男性など幅広い年代の方々、合わせて48名の参加がありました。内容は、太鼓の劇団で知られる民族歌舞団荒馬座の岡田仁さんを講師に、4台の大太鼓を用いて行いました。柔軟体操で体をほぐし、太鼓の材料、バチの持ち方や構

え方の説明を受け、ひとりずつ和太鼓の前に立って太鼓を叩き、簡単なリズムから3～4回リズムを変えて叩いたのちに東京音頭と炭坑節の2曲を体験しました。参加者同士で



講座がすすむにつれて声を掛け合う姿が増えました

リズムを確認し合い、太鼓に向き合いました。小学生のお兄ちゃんが太鼓を叩く姿を見て2歳児が自然に叩き始める姿を参加者全員が見守る微笑ましい場面もありました。しめくりに、介護保険とは、と参加者に問いかけ、いずれは誰もが世話になる制度であること、介護を受ける時期を遅らせるには予防が大切であること、人とのつながりが重要なことなどを共有しました。参加者からは初めてあった人と自然に言葉を交わすことができ、ともに何かをすることの一体感を感じた、さらにネットワークが広がったとの感想もあり、参加型のワークショップは人とのつながりづくりの一つのツールとして有効であることが共有できたと思います。 工藤春代

編集後記：家の中で転び、足の親指を骨折した。いつもは歩く道をバスに乗ったり、家人に送ってもらったりの生活が1ヶ月続き、気がついたら筋力と体力が落ちていて階段を上るのも歩くのもきつい。早く体力を回復させなければと焦り、階段はなるべく歩くようにした。外に出るきっかけがあることと身体を動かすことを生活習慣に取り入れることの大切さを感じ、これは介護予防だなどと思いつつ、まずは転ばないように心がけたい。(K)